

葉の花



令和元年度 学校教育目標

心ゆたかに たくましく

重点目標

「よく聴き よく考え 実践する子」

【授業・職員紹介版①】伊豆の国市立長岡北小学校学校だより 元/7/4号 TEL055-948-1062

★★学習課題「大きな声で聞こえやすい発表をしよう」★★★★★★★★★★

～4年1組国語：井澤沙緒里先生～

「すじ道を立てて書く」の最後の授業です。これまで、三段構成で、筋道の立った文章を書くことができることを目標に授業を進めてきています。題材は「ことわざ」。自分の選んだことわざについて調べ、相手に伝わるように筋道を立てて文章をつくってきました。班内で互いの文章の構成について確認し合い、よかった点や改善すべき点を指摘し合い、書くことについての評価や振り返りをしてきています。この授業では、学級全体の前での発表です。表現力を身につける授業です。この単元の目標からは少し発展的な内容です。黒板には「大きな声で、聞こえやすい発表をしよう」「友達の発表をしっかりと聞こう」というねらいと、「1行ずつ開けて名前を書いて、評価しよう。」というようにノートへの評価の仕方がしっかりと明示されました。



みんなが「急がば回れ」「七転び八起き」「鬼に金棒」「花より団子」などについて、それぞれが三段構成でまとめた説明文を発表しました。互いに発表の仕方について気づいたことをノートに書いて

います。「声の大きさがちょうどよかった。」「言葉を見たらみんなのところを見て話していた。」「みんなに聞きやすい声でよかった。」などです。よい発表とはどのようなものか、子どもの中で理解が深まっています。最後は話し方について、井澤先生から講評がありました。

「ノートばかり見て読んでいると、声が小さくなってしまいうんです。相手に伝わりにくくなってしまいます。〇〇さん

は目線をみんなに送って読んでいました。」「終業式の代表の人は、原稿から目を離してみんなの方を見て話しているといいよね。」など、本時の目標に沿った価値付けをしていました。



★★学習課題「ソーイングの基本・玉結びができるようになろう」★★★★★

～5年1組家庭科：三矢優子先生～

「はじめてみよう ソーイング・針と糸にチャレンジ」の第1時です。自分自身も、初めて雑巾を縫って完成したときの喜びの感覚は未だに覚えています。5年生は、今からそれを体験します。糸でものを縫うのには、まずは「玉結び」ができないと始まりません。三矢先生は、太めの糸を使い、親指と人差し指を使いクルクルと糸の輪に糸の先を絡めていくこと、そこから玉結びにするには、今度は親指と中指で糸をはさんで引っ張



ればできることをゆっくりと丁寧に示しました。さて、子どもたちの番です。教わったとおりにやってみます。輪に対して先の糸が長すぎてうまくいかない子、クルクルと回せたけど中指で押さえて引っ張ることがうまくできない子など…。先生は、机間指導していきます。うまくできていない子どもに丁寧にコツを伝授していきます。「まだうまくできない人はいますか？」といいながら本当に一人残らずできるように見ていきます。

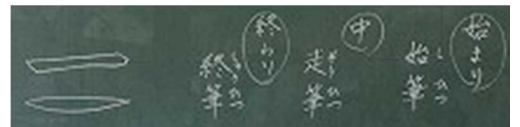


ソーイングの基本中の基本だからこそ、全員ができるようになるように見取りと支援を熱心に繰り返す。時には見て回ったときに共通して上手いいかないところを、一度手を止めさせて、どうしたらよいのか再び説明していました。「先生、上手にできたよ。」と自慢げの表情。「早く何か縫ってみたい。」そんなつぶやきも聞こえました。親指、人差し指、中指の動きをそれぞれどのようにしたらよいか、はじめはぎこちなかったのが、いつの間にかそれぞれが**ばらばらではなく、なめらかに**できるようになっていきました。

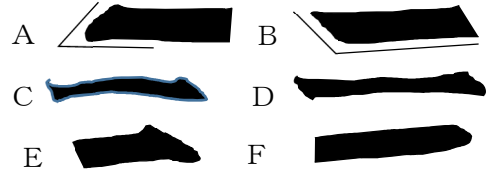
★★学習課題「紙筆・送筆・終筆を意識して横画の『一』を書こう」★★★★★

～3年1組国語(書写):長島 聡先生～

3年生から毛筆を使った学習が始まっています。机の上には休み時間に書写の道具が準備されています。「いまやっていることをすべて止め」「手を置いて」「背筋を伸ばす」「礼」と長島先生の言うとおりに、静かな中にもきちんとした礼をして授業がスタートしました。



まず、黒板に本時の目標「始筆・送筆・終筆の筆使いを理解して、横画を書くことができる。」が書かれました。前時の「十」で横画のよい人の書写を紹介し、さらに、どのように横画「一」の字を書けばよいのか、わかりやすく演示します。「筆は真ん中より少し上の方を持つ。縄跳びの持つところも端を持った方がよく回るでしょ。それと同じだよ。筆を動かしやすい。」次に、始筆、送筆、終筆のこつを押さえながら説明しました。その後さっそく子どもたちは自分の席について慎重に「一」を書き始めます。始筆がAのようになってしまう子どもにはBのように「自然に筆を置く」ように、送筆がCのように弧を描いてしまう子どもにはDのように「まっすぐやや右上がりになるように」、また、終筆がEのように筆に力を入れて終わろうとしている子どもにはFのように「こぶがなくなるように、最後も自然に止まろう。」と指導します。



「いいね。」「こぶがなくなってきた。」「うまくなったぞ。いいぞ。」「だいたい書けるようになった。」と価値付けます。初めは、始筆、送筆、終筆のこつをバラバラに意識していたのが、次第に技能が連続して、なめらかな動作となっていく子どもが出てきました。明らかに質が高まっています。

最後は片付けを終わってから、背筋を伸ばし、姿勢を正して「礼」で、静かに授業が終わりました。★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

